

# 高齢者人口に占める介護認定者割合、トップは大島区

介護保険制度の認定状況を見るために、2018年12月31日現在の最新データをもとに表を作成してみました。

ごらんのとおり、高齢化率が31%を超えるなかで、チェックリストを除く認定者数は1万2809人。このうち、65歳以上の第1号被保険者は1万2560人

で、高齢者人口に占める割合は20.60%になっています。下表には出てきませんが、この割合は、2014年度までは22.3%前後で推移していました。2015年度以降は20%台に落ちています。第2号被保険者は249人です。合併前の地域ごとに見ると、高齢者

人口に占める介護認定者の割合で1番高いのは、大島区の29.89%です。第2位は牧区の28.04%、第3位は安塚区の27.54%となっています。この順位は1年前と変わりありません。この割合が1番低いのは頸城区の19.64%、次に合併前の上越市区域

19.74%となっています。

第1号被保険者と第2号被保険者を合わせた要介護度別認定者数・割合は、要介護1が2553人で、19.9%と1番高く、要介護2が2番でした。

私が今回注目したのは、第2号被保険者の認定者数です。今回は初めて250人を下回り、249人となりました。6年前の2012年12月では349人もいましたから、それがほんのち、6年で100人ほど減ったことになります。

人口	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率 (%)	認定者数 (チェックリストを除く)			
			1号被保険者 (65歳以上)	高齢者人口に占める割合 (%)	2号被保険者 (40歳~64歳)	
全市	193,275	31.54	12,809	20.60	249	
合併前上越市	130,468	29.20	7,677	19.74	157	
安塚区	2,326	49.96	318	27.54	4	
浦川原区	3,326	36.44	248	20.71	5	
大島区	1,505	52.03	232	29.89	2	
牧区	1,832	48.47	248	28.04	3	
柿崎区	9,531	38.13	766	20.86	14	
大湫区	9,454	33.34	631	20.11	13	
頸城区	9,466	26.74	500	19.64	18	
吉川区	4,133	39.85	408	24.71	5	
中郷区	3,688	40.86	334	22.10	7	
板倉区	6,721	35.92	491	20.46	9	
清里区	2,679	36.21	206	21.03	4	
三和区	5,568	33.62	432	23.24	6	
名立区	2,578	42.40	228	20.49	2	



## 急性期の平均病院滞在日数は17日

柿崎病院後援会理事会が1月30日開かれ、柿崎、大湫、吉川区の理事などが参加しました。

理事会では、太田求磨病院長(写真・立っている人)が病院の現状について報告、「29年5月から主治医2人体制にし、2人の目で患者を見るようにした」「今年度、脳卒中連携パスが入って、細かいリハビリもできるようになった」「急性期患者の平均病院滞在日数は17日となっている」ことなどについてのべました。

【ヤブコウジ】再掲。サクラソウ科の常緑小低木。漢字で「藪柑子」と書きます。7月~8月頃、白色または帯紅色の花を咲かせます。10月頃から赤い実をつけます。花言葉は「明日の幸福」。雪のある林の中での赤い実はいいですね。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1895 2019.2.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第五四三回

### 「赤い花」

夜中にお茶飲みとはびっくり。半月ほど前、母が夜の一時近くになって、台所から急須を持ってきて、「のどが渴いたすけ」と言いながらお茶飲みを始めました。私は「なんでこんな遅い時間に飲むのだらう。何か体の調子がいつもと違うのではないだらうか」と心配になりました。でも、それは取り越し苦労でした。お茶を一口飲んだ母がうれしそうに話を始めたのです。どうやら、母は私と話をしたかったようです。

そのときの母と私の会話を再現すると、おおよそ次のようになります。

「とちや」

「なしたてが」

「きんな、家のまわりを、ぐるっとまわって歩いたがど」

「ふーん」

「そんで、前庭んとこへ行ったら、チューリップみていな葉っぱがあつてな、そんなに赤い、まんまるの花がベトから出たがど……」

「へーえ、そりやなんだろいね」

「おまん、今度、見いけれ」

「いいでも……」

その夜の話はそれくらいで、短く終わりました。

話を聞いていて、私は、「夢を見たときのことと現実のことが、また、ごっちゃまんなざいになっているに違いない」と思いました。「また」と書いたのは、最近、母の話にはそう言ったふうに感じられることが何回もあったからです。

翌日、私は暗いうちに起きて、「しんぶん赤旗」の配達に出ました。配達が終わったのは七時近くになっていました。終わって、玄関のところまでやってきたところで、前の晩の母の話を思い出しました。

まずは玄関脇にある雪を見ました。母が家のまわりを歩いたというなら、足跡が残っているはずだと思つたからです。ところが、雪の上にはひとつも人間の足跡がありませんでした。ネコやタヌキなどの足跡もありません。

「やはり、夢だつたんだな。そもそも、自力で歩くのが困難になってきている者が家のまわりを歩くなんて考えられない」そう思いました。それでも、念のため、庭木が植わっているところから家の脇にある道へ出てみました。母が最後のところで見たと

いうチューリップ状の葉っぱと「赤い花」があるかどうか気になったのです。道が農道と出合うちよつと手前のところで止まり、あつと思ひました。「一層くらい奥に赤いものが見えるじゃありませんか。」

すぐそばまで行くと、緑色の大きな葉に囲まれ、赤い実が五、六個ついています。大きな万年青（おもこ）です。葉や赤く丸い実を手にとつてみて、母が「ベトの中から赤いまんまるの花が出ています」と言つたものに違いないと確信しました。

それにしても、誰が植えたのでしょうか。家に入つて、母に、「ばちや、おまんがそつた赤い花は万年青だろね。じちや、植えたがか」と聞くと、「ほっか。ほしや、じちやだろつなあ」と答えました。

デイサービスの日か医者に行くときでもなければ外に出ない母がなぜ外に出たのか。私にはひとつ思い当てることはありません。稲沢市に住む弟からの電話です。

正月に帰ることができなかった弟は先日、母のところへ電話をかけてよこしたのです。「かちや、サクラ咲いたら帰るからね、待つてないや」そう言つたというのです。母は家のまわりに桜が咲いていないだらうかと、気になったのでしよひね。

## 久しぶりに「ハッピーカフェ」へ

1月30日は県立吉川高等特別支援学校のハッピーカフェの日。久しぶりに出かけてきました。カプチーノといちご大福を楽しみました。

3階の「喫茶店」では、緊張しながらも生徒さんたちがカフェのスタッフとして元気に頑張っていました。「今日はご来店ありがとうございます」から始まって、挨拶の言葉が気持ちよく伝わりました。



この日は、地元の吉川中、城北中、大町小の児童、生徒のみなさんも来店、賑やかでした。

## 「高田のまちづくり」で注目発言いくつも

先月26日に行われた市議会とまちづくり団体などの意見交換会。2時間半にも及ぶ会で注目すべき発言

がいくつもありました。

「移住のハードルをもっと下げられないか」「この上越市はサイクリング天国だ。朝市も目玉商品に」「まちと周辺部地域をつなぐことが必要だ」などです。

意見交換という状態にはなりませんでした。こうした発言をしっかりと受け止め、議論していきます。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月23日(水)	1月30日(水)
上越南消防署	0.047	0.040
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.057	0.050
名立分遣所	0.057	0.043